戦争の記憶 継承

広島の大西さん（松前出身）動画制作

原爆孤児 証言生々しく

愛媛での上映にも意欲

広島平和記念資料館を案内するピースボランティアなどの平和活動に取り組む松前町出身の小学校教諭大西知子さん(68)＝広島市＝がこのほど、原爆孤児の証言を収録した動画短編ドキュメンタリーを制作した。大西さんは「資料館には原爆孤児に関する展示はほとんどない。命の重みや戦後を生き抜く厳しさを知る上で大切な切り口」と制作意図を話し、愛媛での上映にも意欲をみせる。

タイトルは「原爆孤児の魂」。両親ら家族を失った川本省三さん(83)＝広島市＝が約10分、当時の様子などを証言している。

原爆投下当日に撮影された写真について広島平和記念資料館の来館者に説明する大西知子さん＝８月、広島市

「いち早く芋団子を手に入れた子が口に入れると他の子が群がってね…口の中に指を突っ込んでほじくるわけですよ。それでむしゃぶりつく。ほんと『餓鬼』『鬼』。そうやって飢えをしのいでいたんです」

家族を奪われた原爆投下時、川本さんは国民学校6年生で、広島県北部の三次市に疎開中。息苦しさから預けられた親戚の家を出て、当時の国鉄広島駅周辺で多くの孤児と生活した。作品では、食料もない中、必死に生きようとする孤児の様子を生々しく語る。

これまで被爆した報道カメラマンの手記の監修などに取り組んだが「映像なら若い人に見てもらいやすく、家庭でも気軽に見られる」と大西さん。ただ映像制作に携わった経験はなく、２０１５年5月から週末に東京の映画学校に約半年間通って知識や技術をゼロから勉強した。「原爆孤児の魂」は、卒業制作としてシナリオ作成や撮影など全て1人で行った。

愛媛では18年夏に計画している原爆展で上映を予定。大西さんは、ほかの証言も記録していきたい考えで「まだまだ肉付けすべき点も多い。これまで証言できなかった人にも話してもらうため、その人に寄り添って少しずつ信頼関係を築いていきたい」と話している。

（河端渉）

愛媛新聞 :朝刊 2017/09/10 面名:一社 ページ:005

(C) 愛媛新聞社　無断転載、複製及び頒布は禁止します。